

# 巻頭言

## 日本放射線技術学会 第66回総会学術大会を開催して

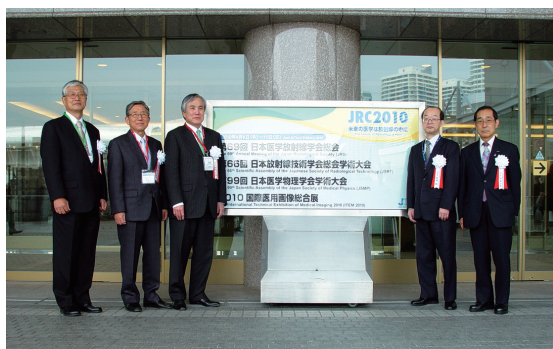
日本放射線技術学会第66回総会学術大会 大会長  
駿河台日本大学病院 放射線部 技術長補佐  
石井 勉



石井 勉 先生

### 1. はじめに

JRC2010は4月8日(木)～11日(日)の4日間にわたりパシフィコ横浜会議センター、国立大ホール、国際展示場、アネックスホールにて開催されました。前日に雨と強風に襲われ開催初日への影響を心配していましたが、気温がやや低めであったものの快晴に恵まれほっといたしました。またその嵐にもめげず美しく桜の花が残っており、まるで学会開催を祝福しているかのようでした(学会終了後の翌日からは寒波が来、雪も降りました。)。このように天候に恵まれた学会になりました。



### 2. 大会テーマ

大会合同テーマは「未来の医学は放射線の中に」  
- The Future of Radiology is Here - としました。放射線医学や医療技術の発達などの急激で高度な進歩を踏まえ、今の放射線医学が未来へつながり医学全体の発展に寄与する意を表わしています。

### 3. 会場と参加登録

参加登録費を13,000円にし、1,000円の値上げをしました。また、前回まで行われていた登録費10,000円の事前登録を廃止しました。これは学会の規模が大きくなる一方で、景気の悪化や企業の業績低下により広告費などが減少したためと、事前登録にかかる経費の削減が大きな理由です。従来放射線技術学会の事前登録会員には予稿集を事前配布していましたが、今回は会員全員に予稿集を配布いたしました。登録受付、CyPos閲覧会場、プレビューセンターなど学会の主な部分は、会員の動線を加味して展示ホールAに集中させました。初めての試みであったため心配していましたが、参加登録費についての苦情や問い合わせもなく、また、会場が広く担当者の誘導・説明もよかったため、会員の流れも非常にスムーズで混乱なく進行しました。なお、プレビューセンターは会議センターにも設置しました。

参加登録者は年々増加しており、日本医学放射線学会4,823名(44.2%, 学生342名含む)、日本放射線技術学会4,387名(40.2%, 学生638名含む)、医学物理学会653名(6%, 学生157名含む)の登録があり総合計が10,916名となりました。

( )内は参加者数に占める割合

### 4. 合同企画

JRC2010合同企画として、1「広がる放射線医学の役割」、2「医療経済における放射線医療」、3「放射線治療における専門職の役割」、4「Autopsy Imagingの将来展望」の4シンポジウムを行いました。産学連携セミナーとしては、(株)島津製作所、

東芝メディカルシステムズ(株)、富士フイルムメディカル(株)、(株)AZEの4セッションを行い、また、CTCコロノグラフィートレーニングコースを開催しました。合同懇親会は国立大ホールマリノロビーにてチーズ&ワインを中心に開催されました。トークショー「折れない心」と題して柔道家の野村忠宏氏とフリーアナウンサーの竹山まゆみ氏を中心に開催しました。どの会場も多数の参加を得て好評に終了いたしました。

演題発表については、プレゼンテーションソフトにPower Point2003以降を使用してデータをUSBストレージにて持ち込むことにし、パソコン持ち込みを無くしましたが混乱なく運営できました。しかし講演の先生にはコンピュータ持ち込み、USBどちらでも受け付ける旨をお伝えしていましたため問い合わせがありました。連絡が不十分であったと思われるので今後検討する必要があると思われます。

ランチョンセミナーにおいては整理券の配布を無くし、直接並んで先着順に参加いただくことにしました。またこの際の列の最後尾のご案内が好評でした。しかしランチョンセミナー参加を先着順にしたために、お昼近くのプログラムでは途中退出する方が多く、少し残念でした。

## 5. 市民公開講座

市民公開講座は4月3日(土)13時から兵庫県医師会館で「前立腺がん－早期発見からやさしい治療まで－」のテーマで、前立腺がんの基礎知識、痛くない見つけ方、新しい放射線の治療を紹介、その後、前立腺がんのQ&Aとしてあらかじめ受けていた質問に答える形で行い、参加者235名のもと盛大に終了いたしました。



## 6. 技術学会企画

特別講演1では「医療人が才能を発揮する勝負脳の脳科学」と題して日本大学大学院の林 成之教授に、特別講演2では「Photon Counting Detectors in Mammography」と題してスウェーデン王立工科大学のMats Danielsson教授に講演頂きました。また、シンポジウムでは1「フィルムレス時代の光と影」、2「PETおよびPET/CTにおける画像再構成法の特徴と問題」、3「心臓CTにおける知識と技術」の3セッションを行いました。その他、教育講演9題、入門講座としてモーニングセッション12講座、技術活用セミナーを14セッション、ST講座を11講座、フォーラムを「放射線管理フォーラム」、「標準化フォーラム」、「医療情報フォーラム」、「医療安全フォーラム」、「JIRAフォーラム」の5題、分科会プログラムを7分科会にて行いました。日本医学物理学会とは合同で、英文論文誌(RPT誌)優秀論文土井賞受賞者による講演を行いました。

## 7. 演題と会場

今回は特別な企画をせず演題発表を中心にプログラムを編成しました。開催期間が4日間のためゆとりを持った内容に予定していましたが、しかし実際に開催してみると予想外にタイトなプログラムとなりました。

参加登録と同じく発表演題申し込みも年々増加しており、今回も815題の申し込みがありました。取り下げがあり最終807題となりました。海外からの申し込みは4題でした。海外からの演題申込者への参加登録費の扱いが決定していなかった点は、今後の課題にしたいと思います。

発表は口述発表553題、CyPos254題で、口述発表時間7分、討論3分、CyPos発表時間3分、討論2分に設定し、座長の適切な進行で終了いたしました。会場においては収容人員を超過した会場が13%あり、120名、140名定員の会場がそのほとんどであったため、これらの会場使用方法を今後細かく詰めていく必要を感じました。CyPos閲覧については、座長から事前閲覧をもう少し早くしてほしいとのお話がありました。座長に当たっている演題のみ事前閲覧を許可していましたが、関連する演題群の発表も閲覧させてほしいとのことでした。

## 8. 2010国際医用画像総合展

年々増加の一途を辿っていた国際医用画像総合展も昨年はリーマン・ショックにより入場者が落ち込み、今年はどうなるかと心配していましたが、出展社が133社と昨年と同程度となりました。国際展示場のAホールに各学会の受付、登録受付、CyPos閲覧会場、プレビューセンター、クロック等、学会の主要部分を集中させたことが功を奏したのか、入場者数が昨年比10%増の20,977人を数えました。各ブースは入場者で大混雑し景気の回復かと思われるほどに盛大に行われました。JRC2010参加登録者の入場は8,075名で前年より4割の増加でした。



## 9. おわりに

細かな問題点は多々目につきましたが、致命的な問題は起こらず無事に終了できたことに胸をなで下ろしています。そしてこのように終了できましたことは第69回日本医学放射線学会総会会長 杉村和朗先生、第99回日本医学物理学会学術大会大会長 加藤博和先生、日本画像医療システム工業会 加藤久豊会長、日本ラジオロジー協会 小島 誠人事務局長を始めとする事務局員の皆様、日本放射線技術学会 宮高 睦事務局長をはじめとする事務局員の皆様のご指導とご協力のおかげと感謝申し上げます。また、小寺学会長、学会理事、各分科会会長、プログラム委員会、大会開催委員会のご指導、ご支援に感謝申し上げます。そして準備から企画、運営と最後まで一致協力していただいた新木 操実行委員長をはじめ飯田紀世一、井野賢司、小澤一夫各実行委員に心からの感謝の意を表します。

